

「見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力を発揮する児童の育成」

～考えるための技法を用いて～

I 研究内容及び具体的な研究活動

1 研究内容

- ①「見方・考え方」と「考えるための技法」の関係と意義についての研究。
- ②本校独自の「考えるための技法」を研究し、設定をしていく。
- ③「考えるための技法」を用いて思考力・判断力・表現力を発揮する授業づくり・授業改善を進める。
- ④授業で学んだことを生かし、主体的に家庭学習につなげていく。

2 具体的な研究活動

- ①「見方・考え方」と「考えるための技法」の関係と意義についての研究をする。
 - ・各教科や総合的な学習の時間等、「見方・考え方」の視点や方法を研究し、「考えるための技法」との関係を決めながら、育成する資質・能力を設定した。
- ②本校独自の「考えるための技法」を研究し、設定していく。
 - ・児童一人一人が自ら課題を見付け、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら解決する問題解決的な学習過程を意識して授業を行う上で「考えるための技法」を本校独自に設定し、活用を進めた。（「南小思考スキル」の設定）
- ③「考えるための技法」を用いて思考力・判断力・表現力を発揮する授業づくり・授業改善を進める。
 - ・子どもたちが各教科等の「見方・考え方」を働かせて個別具体的な対象にアプローチできるようにする。また、教科横断的に汎用性のある資質・能力を育成する観点から、「考えるための技法」を可視化した「南小思考スキル」を積極的に活用し、授業改善を行う。
 - 上記のことを具現化するために、17個設定した思考スキルを取り入れ、一人一実践を行ってきた。同じ学年間、ブロック間の教員で見合う中で、全職員が新学習指導要領の完全実施に向けて、具体的な指導法を学ぶ機会を設けた。
- ④授業で学んだことを家庭学習へつなげる。
 - ・学力向上、南小スタンダード、南小ノートの取組と改善を行った。児童が学習後も家庭で主体的に学習が行えるよう、各学年の自主学習ノートについて「南小ノートかんぺきガイド」を作成した。その学年の学習内容に沿った、事例を多く紹介し、児童自らが主体的に家庭学習に取り組めるようなガイドを作成した。これにより児童ばかりでなく、保護者にも共通理解を促した。
 - ・本校が3年間の研究の中で収集した地域素材や、作成した教材化シート、授業実践を踏まえて、総合的な学習の時間や6年生の歴史学習に関連させた、甲州市社会科副読本「ふるさと甲州市」を今年度、活用してきた。さらにCATVとも連携して「ふるさと甲州市」映像資料を作成した。これにより、本校の児童だけでなく、甲州市の全ての小学生・中学生が地域の歴史や伝統文化に触れる機会を設けた。

II 成果と課題

【「見方・考え方」と「考えるための技法」の関係と意義についての研究】

- 「見方・考え方」とは何かについて北俊夫の著書「ものの見方・考え方」の学習会を行った。教員自身がまずは理解を深め、見方・考え方を働かせる手立てを学ぶことができた。
- 見方・考え方を働かせるために国語、算数などの具体的な場面での学習会を行った。指示・発問するときには有効な言葉について研究を重ねた。また「問い返し」を心掛けたことにより、児童の思考を活性化させることにつながった。
- 見方・考え方を働かせた「深い学び」の子供の姿とは何かの理論的な研究を行うことができた。深い学びの姿を具体的に提示し、共通理解を図ることができたのはよかった。
- 深い学びにつながる「見方・考え方」についても、北氏や田村氏の資料から研究を行い、共通理解をもつことができた。

【本校独自の「考えるための技法」を研究し、設定】

- 「比較する」、「関連付ける」など考えるための技法を本校独自に17項目設定し、低・中・高学年ブロックに分かれて検討を重ねた。学年の発達段階に応じた文言に改善した。
- 考えるための技法を「南小思考スキル17条」として各教室に拡大掲示することにより、いつでも児童が思考の拠り所となるように配慮できた。また、高学年については、南小思考スキルシートを配布した。
- 今年度の後半に作成した思考スキルシートであるため、来年度以降も継続していくことで浸透・定着を図っていきたい。

【「考えるための技法」を用いて思考力・判断力・表現力を発揮する授業づくり・授業改善】

- 「汎用的なスキル」とは何か、全学年の学習内容を俯瞰することにより、身に付けるべき内容を的確に把握して、授業の実践化につなげることができた。
- 一人一実践を通して、どのような思考スキルを重点に置いて授業を仕組むのか共通認識の下で学年間、ブロック間において授業を見合い、授業改善を進めることができた。

【授業で学んだことを家庭学習へつなげる】

- ブロック・学年間で検討し、「南小ノートかんぺきガイド」を作成することができた。各児童に配布し、主体的に児童が自主学習を進められるようなシートを作成することができた。保護者にも家庭学習の在り方について啓発することができた。
- 伝統文化に関わる地域素材を取り入れた歴史副読本「ふるさと甲州市」が3年目にして完成し、各校の高学年や中学校の児童生徒に配布できた。「総合的な学習の時間」や社会科の歴史学習を第一に考えた本である。また、CATVと協力して、ふるさと甲州の映像資料を作成することができた。特に、6年生の歴史学習を我が国の歴史と地域の歴史を比較して捉えることが目的であるが、今後、地域を愛する心や誇りに思う気持ちを育成することにつながるものと期待できる。

III 成果物

- ・考えるための技法「南小思考スキル17条」シート
- ・自主学習「南小ノートかんぺきガイド」各学年のシート
- ・一人一実践の指導案・板書・ワークシート資料
- ・甲州市社会科副読本「ふるさと甲州市」と映像資料

(研究主任 那須 栄樹)